

未来への軌跡

～新・24の瞳～

平成29年3月1日発行 最終号

すべての答えは、現場にある。

分校長 夏目 利江子

伝統ある津島校の記念すべき学校通信「未来への軌跡」最終号発行となりました。未曾有の東日大震災以来、日々の出来事の中で保護者の皆様方や生徒の皆さんのご苦勞を思うと、心震える気持ちです。

さて、2年前から毎月の学校通信を発行してまいりました。多くの生徒・保護者の皆様に御愛読いただき、誠にありがとうございました。もうすでに御存知のことと思いますが、実は、この学校通信は、津島校勤務職員全員で執筆しておりました。分校長が一人で毎号書いていたのではありません。「チーム津島」の先生方が、それぞれの立場で、それぞれの想いを胸に、それぞれの時期に文章にして参りました。ここまで御愛読いただき、本当にありがとうございました。

卒業生の皆さん、仮設校舎での三年間はいかがでしたか？ 生徒の皆さんは、この厳しい環境の中で本当によく頑張りました。春の日差しは、大きくそびえる隣の安達高校の校舎でさえぎられ、真夏の太陽は私達を室温四十五度の世界へ導き、秋の雨は、プレハブに跳ね返る勇ましい雨音となって授業を妨げ、極寒の仮設校舎の冬の教室はマイナス五度になるという、大変貴重な経験もしました。トイレも一箇所だけで、先生方と共有してがんばりました。この貴重な体験は、きっと皆さんの未来の糧となるはずです。今まで本当によく頑張りました。

そして、先生方も本当によくがんばっていただきました。津島校に勤務する教職員の皆さんはいつも多様な価値観で誠実にそれらの価値に向き合い、その課題を考え、解決する姿勢をもって業務に勤しんでいただきました。今、世の中は、答えが定まっていない困難な課題が山積みしています。このような多々の課題を解決しながら、誠実に問いに向き合い、多様な価値観に出逢いながら、共に探求し、考え続け、その先に答えを見いだしてきた津島校勤務の先生方は、素晴らしいと私は心から思います。

さて、休校前の最終号、生徒の皆さんに贈る言葉は、津島校に勤務する先生方が私に手本を示してくれたことの紹介です。社会人とな

る皆さんにも真似て欲しいので、参考にしてください。

①上司から頼まれたことは、やり切ってください。

・半端な仕事はしないこと。何があっても最後まで、絶対にやり切らなさい。

②仕事は盗んで真似て、自分のものにするのです。

・これは、昨年の生徒会機関誌にも書いた通りです。社会人のカンニングは自由です。

③いつでも、どこでも、「準備」して下さい。

・全てに共通することは、「準備の量」と「結果の質」は比例するということです。準備力は成功力です。これからの歩みも、「準備」を忘れずに。

④会社の忘年会・社員旅行には、出来る限り参加して下さい。

・人間関係でのコミュニケーションを最優先すると良いことが必ずあります。気の合わない人の嫌な部分や苦手な部分も受け入れて、謙虚さを大切にしてください。報われない努力はありません。見ている人は必ず居ます、絶対に。

ある日本経済新聞社の記者が、「新聞記者の価値は、駆け抜けた修羅場の数と距離に比例する。」と言っています。現場に立って目の前の課題に正面から向き合った者と、そうではない者の違いだそうです。二十代当時の私が理解できなかったことも、時間は私に多くを教えてくださいました。当たって砕けろ的な発想はもう通用しない時代が来たということです。頑張れば売れるという時代でもありません。自分の理念や確かな使命感を持ち、時に乗り、その環境に適合し、組織を固める時代が来たのだと思います。私は、この津島校勤務でたくさんの事を学びました。支えていただきました全ての皆様方に感謝申し上げます。津島校を支えていただき、本当にありがとうございました。第三学年の皆さん、いろいろありがとね。最後の年、一緒に体育の授業が出来て良かったよ。

管理職になったのだから、生徒との関わりは少なくなるよ・・・と多くの方に言われましたが、私はこの二年間、生徒の皆さんと歩んできた軌跡をととてもいとおしく思います。長野県での歴史探究学習の夜のミーティングでのサプライズを私は忘れません。あなた達に出逢えて本当に良かったです。また、いつかどこかで会いましょう。心震える多くの時間をありがとうございました。

最後になりましたが、保護者の皆様、毎号印刷して読んでいますよ。って言って励ましていただいた、多くの皆様方、本日まで津島校を応援して頂きまして、誠にありがとうございました。心より感謝申し上げます。

上手く文章に表現できませんが、本当に、本当に御世話になり、ありがとうございました。

